



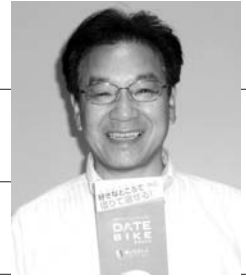
全国自転車議員ネットワーク リレー寄稿 No.6

杜の都には自転車がよく似合う

文

仙台市議会議員 石川けんじ(建治)

本ページの担当事務局：特定非営利活動法人 自転車活用推進研究会 事務局
 〒141-0021 東京都品川区上大崎3-3-1 自転車総合ビル4階
 TEL 080-3918-2932 URL <http://www.cyclists.jp/>



DATEバイク快走!?

ケヤキ並木が美しい“杜の都”仙台市の中心街に2013年3月16日、コミュニティサイクル『DATEBIKE(DATEバイク)』が誕生し、4年目に入りました。今では、街なかを颯爽と走るDATEバイクの風景が当たり前になりました。

昨年度は、環境負荷の少ない交通システム(EST)を表彰する第7回EST交通環境大賞に仙台市が選ばれました。昨年12月に開業した地下鉄東西線の3駅に整備した駅前広場や、DATEバイクが評価されたものです。

DATEバイクの事業主体は仙台市で、株式会社ドコモ・バイクシェアが事業者として運営しています。

利用者が伸びていることなどから、当初の計画は、今年の3月までの3年間の期限付き事業でしたが、さらに3年間延長することになりました。

電動アシスト機能の他、世界初の試みとしてFOMA通信を搭載、遠隔で制御できるシステムを導入したコンパクトな赤い自転車100台、ポート

レストタイプのポート12か所でスタートしたDATEバイクは、今年の8月でバイク195台にポートが41か所に増え、登録会員数も29,370名となりました。

バイク1台が一日に利用される回転数は2.33回(日・台)となっています。

自転車は総合交通政策の一翼

東北で唯一の政令指定都市で108万人が住む仙台ですが、仙台を訪れた方から「仙台ってどんなまち?」「仙台の見所は?」と聞かれると、意外と答えに戸惑ってしまう市民が少なくありません。一方で市民は「住みやすい街」だとも考えています。

仙台と聞いて皆さんはどんなイメージを持っていますか?

「杜の都」「七夕」「伊達政宗」「牛タン」「広瀬川」「ケヤキ並木」…等々。

仙台は、東北の中では比較的降雪量が少なく、中心部周辺は平坦な地形になっており、学都・仙台で学ぶ多くの学生が自転車を利用してきます。東日本大震災後は自転車利用が

さらに増えています。

私は、1999年の仙台市議選で初当選後、現在5期目になっています。

仙台に暮らし、仙台を知るほどに街への愛着が増す中で、「杜の都には自転車が良く似合う」と強く思うようになりました。

旧国鉄マンだったこともあり、交通政策をライフワークとしています。自転車を総合交通政策の一翼と位置付け、他の交通政策とともに行った提言は、市民や市当局の理解などもあり、市民に役立つ事業等が実現できたと思います。

バスの定時性を目的とした「公共車両優先システム(PTPS)」や、タクシー乗り場の集約化「国分町3Way方式」、貨物車両の荷捌き駐車場の拡充と一定規模の建物に荷捌き駐車場を義務付ける附置義務条例の改正、荷捌きとタクシー乗り場のタイムシェア、分散していたJR仙台駅前のバス停の集約化とバスプールの拡充、ICカード『イクスカ』の導入、駐輪場の増設、そしてコミュニティサイクルなどです。

社会実験から本格導入へ

仙台市は2006年3月に『杜の都のまちなか自転車プラン』を策定し、都心部における自転車利用環境の向上に取り組んできました。

現在は、12年11月に国土交通省と警視庁が策定した『安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン』と、



旧プランの検証を踏まえて、より実効性のある『杜の都の自転車プラン』を策定し、自転車利用が楽しいまち仙台を目指して事業を進めています。

私が、コミュニティサイクルの調査研究を進めていた2009年秋に、海外行政視察の機会に恵まれ、イタリアのミラノ市で展開しているレンタル自転車「バイク・ミー」などの視察調査を行いました。

これらを踏まえ同年12月の議会で、自転車施策の推進と合わせコミュニティサイクルの導入を求めました。

実は仙台市も、09年3月に都市整備局の理事を欧州に派遣し、イタリアとスペインの自転車施策を視察するなど、コミュニティサイクルの導入を探っていました。

翌10年11月には、コミュニティサイクルの導入に向けた課題の把握などを目的に「せんだいコミュニティサイクル社会実験」を1ヶ月間行いました。

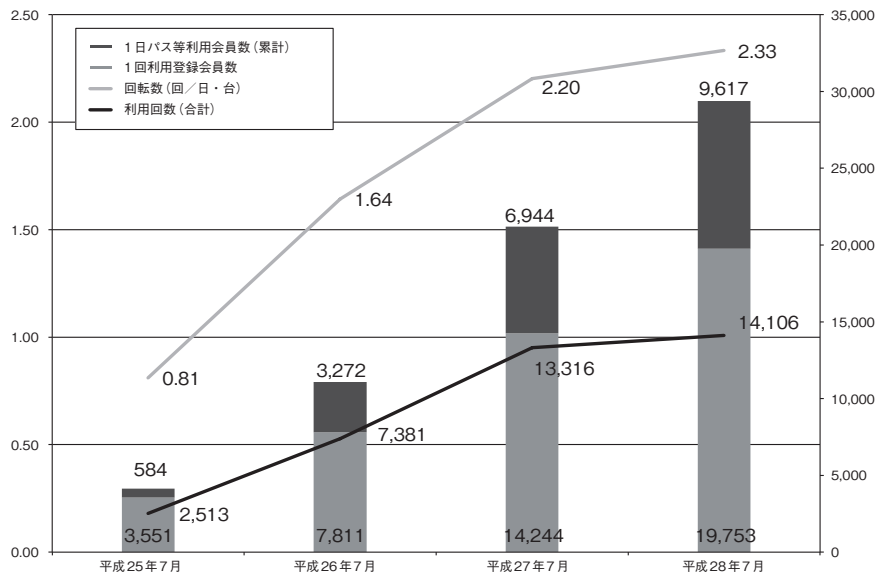
翌11年春には、より長期の社会実験を予定していましたが、3月11日の東日本大震災で断念せざるを得ませんでした。

しかし、国交省の予算がついたことから、12年3月に3年間の期限とはいえ本格的なスタートを切ることができました。

利用拡大と安定運営が課題

ダテバイクの利用エリアが拡大するに伴い、通勤や通学、買い物、業務など利用法も様々。加えて、市民の健康づくりや健康維持、市内散策や名所・旧跡めぐりなど、市民のみならず観光客も利用しています。昨年3月に仙台市で開催された『第3回国連防災世界会議』のために来仙した海外の方も、移動手段として気軽に利用していました。

仙台市としても、自転車レーンなどの整備やスケアード・ストレイト方式の安全教室などのソフト事業を進めています。



ダテバイクは、市民の足として着実に根付いてきていると感じますが、現状では、安定した運営にはいたっていません。

事業者はこの間、「30分無料」やプロ野球団とタイアップした「楽天イーグルス応援」などのキャンペーンの他、子ども乗せ自転車や折りたたみ自転車などのラインナップの追加、新料金プランの追加、ポートの拡大などの利用促進策、さらには、キッズサイクルスクールやスタンプラリー、サイクリングツアーなどの事業を展開してきています。

安定した運営を行うためには、登録会員数、利用回転数ともに増やしていかなければなりません。仙台市の昼間人口は112万人(H22国勢調査)ですので、できれば登録会員数を人口の約1割に当たる10万人以上に増やし、利用回転数も一日1台につき6回転以上を目指したいものです。(グラフ)

仙台の中心部では、毎週のように土・日を中心に様々なイベントが開かれています。代表的なものでは、5月の「仙台・青葉まつり」と「仙台国際ハーフマラソン大会」、8月の「仙台七夕まつり」、9月の「定禅寺ストリートジャズフェスティバルin仙台」、10月の「みちのくYOSAKOIまつり」と「全日本大学女子駅伝対抗選手権大会」、11月の「仙台ゴスペル・フェスティバル」、12月の「SENDAI光のページェント」

等々、さらには、3球技のプロスポーツ球団を抱え、多様な文化施設を持つまちとしてのポテンシャルは、その可能性を高く持っていますから、決して無理な目標ではないと考えています。

事業者と行政のみならず、市民や企業、教育機関などの連携を強め、この事業をみんなで育てていくことが求められていると思います。

他の公共交通機関との連携や自転車利用環境の整備が急務

私はそのためにも、コミュニティサイクルというシステムを、欧州のように公共交通機関と位置付けるとともに、他の交通機関との連携を図ることが重要であると考えます。

同時に、コミュニティサイクルに限らず、自転車政策として、走行空間の拡充に加え、新たな施策として、交差点における専用信号や停止ラインの設置などのほか、車道と歩道を区切る段差や植栽の撤去などの検討を含めたハード面の整備と、交通ルールの遵守やマナーの向上に向けた取り組みについても、道路を使った実践的な自転車教室など、より良いソフト事業を推進していかなければならないと考えています。

その先に、自転車を利用する市民らの笑顔が、心地良い街のシンボルになることを信じて。

PP